

書写環境を整えよう

―授業に役立つヒント・アイディア―

尾道市立土堂小学校教諭 藤井 浩治

書写授業を進めていくうえで、児童が学びやすい環境を整えたい、改善したいと感じることは多い。しかし、どうしてよいかわからないでいる先生方もいるのではないだろうか。私が諸先輩から教えていただいたり、研究会に参加して取り入れたりした工夫をいくつか紹介したいと思う。

1 紙ばさみ

厚紙を表紙にして、新聞紙をノートのように綴じた「紙ばさみ」を児童個々に作らせる。机の横に掛けておき、授業中に自分の書いた半紙をはさんでおかせる。

3 ペットボトルの筆洗い

手洗い場や、教室で筆を洗わせると、床が墨で汚れてしまつて困ることが多い。こんなとき、小型のペットボトルを筆洗いに利用するとよい。

〈筆洗いの手順〉

- ① 授業前にペットボトルに水を入れておかせる。
- ② 授業後に机の上で筆を洗わせる。
- ③ 書き損じの紙で筆をぬぐわせる。
- ④ ペットボトルの水を手洗い場に捨てさせる。

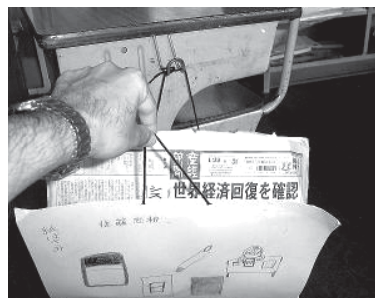
4 見本(基準)に書き込み

授業のねらい、自己の課題、相互評価でもらった意見、気づきを自分で見本に書き込んでいく。そうすることで授業のねらいが常に意識化される。また、見本(基準)と自分の文字との比較により、自己の課題を知り、それを解決しようとする自学自習の態度が身に付くのである。



〈紙ばさみの効用〉

- ① 児童の書いた半紙が床に散らからないので、机間指導の邪魔にならない。
- ② 書いた半紙が汚れにくい。
- ③ 書き損じの半紙を保存できるので、後片づけの際に、筆や硯を拭くことに利用できる。



◀ 紙ばさみ

2 毛筆準備体操

毛筆書写の授業では、授業の初めに書写道具を準備する時間が必要である。できるだけ短時間で準備させたいが、声かけだけでは早く授業を始めることはできない。また、準備ができて毛筆の穂先が固くなつていてすぐに書くことが困難である。そこで、自作の「毛筆の基本点画プリント(B4判)」を使って「毛筆準備体操」を取り入れている。準備ができた児童からプリントに書き始めるのである。

〈毛筆準備体操の効用〉

- ① 基本点画の復習ができる。
- ② 早く準備できた児童の時間を有効活用できる。
- ③ 毛筆に墨をなじませることができる。



5 わりばしの活用

見本(基準)と自分の文字を比較することから、自己の課題を発見できることは先にも述べたが、このとき「わりばし」や「竹ひご」を利用するとよい。見本と自分の文字の上のせて、「画の長短や方向」「文字の中心」を確認する。初めに使い方を示してやれば、自分で工夫して使い始める。書写道具の中に常備しておくと便利である。

6 練習用紙の活用

毛筆書写の個別指導は、書写技能に自信のない教員には負担である。こんなときには練習用紙を活用すればよい。練習用紙には、画の輪郭を縁取った「かこ書き練習用紙」と画の中心を小筆で書いた「骨書き練習用紙」などがある。これらの練習用紙を事前に中質紙に印刷しておけば、授業ですぐに使用できる。

また、応用として、児童自身に自己の課題に応じた練習用紙を作らせる学習方法もある。児童の思考・判断力が高まる学習場面となる。

◀ かこ書き練習用紙



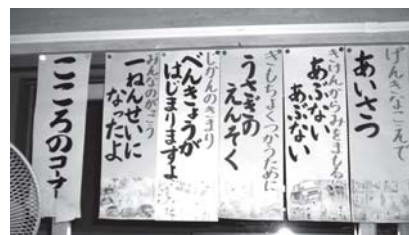
◀ 骨書き練習用紙



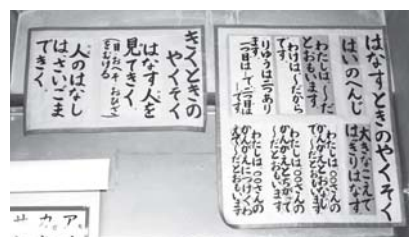


教科書体

明朝体活字



▲ 一年生の教室掲示

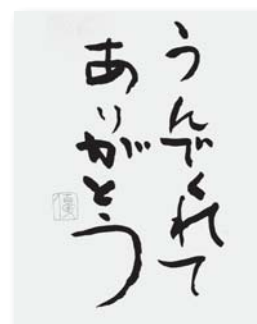


9 学校内の書き文字環境

学校内には各種多様な掲示物がある。児童の目に自然に触れるこれらの掲示物が児童に与える影響も少なくない。

例えば、左図のように明朝体活字の「口」と教科書体を比較してみると、画の「接し方」が違っていることが分かる。このように活字には、画の「長短・方向・組み立て方」において書き文字と異なっているものがある。児童の目にはできるだけ、活字やデザイン文字ではなく「書き文字」を見せる環境が必要である。

左の写真は一年生の教室掲示であるが、毛筆を使って分かりやすく丁寧に書かれていて担任の意欲が感じられる。



7 「総合的な学習の時間」と連携した教育活動①

〈各種行事での掲示・卒業式へ向けて〉

各種行事で、児童の書いた作品を掲示する。例えば、卒業生に感謝の気持ちを込めた掲示物を作成し、卒業式で飾る。

① 三年生：「ありがとう」「おめでとう」を書く。

② 四年生：卒業生が文化祭で歌った思い出の歌詞を書く。

（歌詞を全員で分担して、折り紙に「一文字ずつ書く。」）

③ 五年生：卒業生の名前を短冊に書く。

④ 卒業生は家族へ向けて感謝の言葉（メッセージ）を書く。

掲示物を作成することを通して、卒業式に向けて全校の児童の気持ちを高めていくことになる。また、素晴らしい思い出の一日にしていくための心の込められた演出としての掲示物となる。

卒業生は、自作のメッセージを卒業式終了後に、家族に手渡すようにしている。



8 「総合的な学習の時間」と連携した教育活動②

〈用紙・用材の工夫〉

いつも半紙に文字を書かせるのではなく、図画工作科や「総合的な学習の時間」と関連をもたせて、画用紙や色画用紙、板、うちわなどに書かせる活動も児童の興味・関心を高める意味で有効である。

「総合的な学習の時間」で福祉体験をしたあとに、感動を俳句で表現した。その俳句を毛筆で画用紙に書いてミニ屏風に仕立てた。

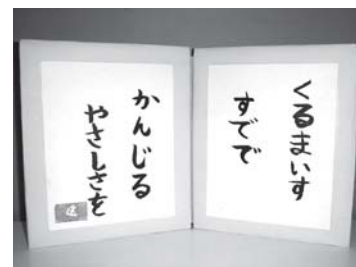
また、コップ（廃物利用）に紙粘土をつけて絵の具で色をつけ、毛筆で俳句を書いた。体験の報告として作品展を開く活動や、体験のお礼としてプレゼントするなどの活動につなげることができる。



▶ 布に絵の具で文字を書いたタペストリー



▲ 福祉体験後の俳句（ペン立て）



▲ 福祉体験後の俳句（ミニ屏風）

おわりに

私の勤務校では、ジャイカ国際交流の関係から、南アフリカの教員が毎年視察に訪れている。この機会を利用して、日本の伝統文化にも触れてもらおうと、児童と二緒に書写の授業を体験してもらっている。このようにあらゆる機会を活用することで、児童の書写に対する関心・意欲を高める実践を行っているのである。

書写授業に役立つヒント・アイデアのつもりで、私の身の回りの実践を紹介させてもらったが、読者の皆様に何か一つでもヒントになれば幸いである。



▲ ジャイカ国際交流